



入谷小校長室だより 顔晴れ！入谷っ子！

2018年10月1日
No. 7
TEL 46-2655
FAX 46-2654

学校教育目標：命とふるさとを大切にすることの育成

目指す児童像：《一はきはき 一てきばき 一にこにこ》

☆いつもまなぼうとする子 ☆りりしくたくましい子 ☆やさしくたすけあう子
心も体も元気な子どもを育成するために 家族みんなではやね・はやみき・あさごはんを実践しよう!!

文責：校長 高橋 有

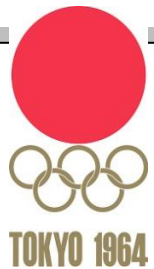
— 実り多い秋を目指して・・・ —

《ご家庭においてお子さんと一緒に読んでみてください》

10月8日は「体育の日」です。平成12年より、10月の第2月曜日が「体育の日」となりましたが、以前は10月10日でした。この日は、気象庁の観測史上、全国的に晴れの多い日として、昭和39年に行われた東京オリンピックの開会式に選ばれました。その後「体育の日」に定められ、日頃からスポーツに親しみ、健康な心身を育てていくことの大切さが叫ばれました。

体育の日が生まれるきっかけとなった「東京オリンピック」。

初めて日本で行われたオリンピック。東洋の魔女と呼ばれた女子バレーボール選手は金メダルを取り、テレビの視聴率は85%を超えたそうです。男子体操や男子レスリングも大活躍でした。(私はこの年に生まれたので実際に見ていませんが・・・) 日本中が盛り上がった東京オリンピックの中で、感動的なエピソードを紹介します。



— がんばれ ゼッケン「67」！ ～ 励まし・応援・称え合う感動 —

陸上1万メートル決勝での出来事です。38人中9人が途中棄権するほど、辛い競技です。アメリカの選手が優勝し、競技場に次々と選手が入ってきます。多くの観客が見守る中、最後のランナーが入ってきました。「ゼッケン67」スリランカのカルナナンダ選手です。1周して、ゴールをしたかと思ったのですが、まだ走り続けています。実は、3周遅れだったのです。最初は、冷ややかに見ていた観客ですが、誰もいないトラックを2周目、3周目と脇腹を抱えてゴールするカルナナンダ選手に感動し、優勝した選手以上の大きな声援と拍手が送られました。恥ずかしい気持ちもあったでしょう。でも最後まで諦めず、走り続けたカルナナンダ選手は、多くの人たちに勝ち負けよりも大切なことがあることを教えてくれました。

レース後、カルナナンダ選手は「娘が大きくなったら、お父さんは負けても、最後まで頑張って走ったと教えてやるんだ」と語ったとのこと。その後、カルナナンダ選手は事故で亡くなったそうですが、オリンピック出場を決めた日に生まれた娘さんは、看護師として、父の言葉を胸に今も頑張っているそうです。

2020年に開催される2回目の東京オリンピックも、このような感動を与えられる大会になってほしいですね。

— 何事も最後までやり通す強い心を持つ入谷っ子を目指して —

スポーツの秋です。家族や友だちと一緒にスポーツを楽しみ、心と体も鍛えましょう。また、10月は、学芸会、持久走大会、そして、11月には、南三陸町小・中学校音楽祭と大きな行事が続きます。

それぞれの行事において、自分のめあてに向かって最後までやり通す強い心を持って取り組んでほしいと思います。

そして、全校児童72名「チーム入谷」としての可能性を広げ、実り多い秋を目指していきましょう！



《9月の職員会議で教職員に提示したことばです！》



のことば・・・

『もう悪口を言うのはやめよう』

ほしの とみひろ
《星野 富弘 氏》



【星野氏の詩画集より】

『鏡に映る顔を見ながら思った。もう悪口を言うのはやめよう。
私の口から出た言葉を一番近くで聞くのは私の耳なのだから』

上記の詩は、詩人で画家の星野富弘さんが美しい花とともに書いた詩です。

星野富弘さんは、中学校に体育教師として着任したものの、2か月後に体操部の指導中、宙返りの模範演技の失敗により頸髄損傷の重傷を負い、肩から下の機能が麻痺してしまいました。毎日天井ばかり見つめる日が続いたそうです。そのようななか、大勢の人から手紙が届いたが返事を書くことができず、悩む日々。ある日、口に筆をくわえて字を書いてみると線らしきものが書けることを発見しました。

その後、繰り返し長い時間、口にくわえて筆を動かす練習をし、字だけではなく美しい花の絵まで描けるようになりました。（上記の詩画）

星野さんの生き方や不屈の精神から生きることの素晴らしさ、生きがいを見出すことの大切さを子供たちに考えさせてほしいと思います。また、この詩を通して、子供たちの生活を振り返らせ、日々の生活の中で、悪口や嫌がらせなどをしていないか、しているのであればやめること、今後もしないことなどを確認する資料として紹介してみてください。

星野富弘さんの名言集を読んで、私自身が考えさせられた詩を紹介します！

『この道は茨（いばら）の道
しかし茨にも ほのかにかおる花が咲く
あの花が好きだから この道を行こう』

『冬があり夏があり 昼と夜があり
晴れた日と雨の日があって ひとつの花が咲くように
悲しみも苦しみもあって 私が私になってゆく』

『川の向こうの紅葉が きれいだったので 橋を渡って行ってみた
ふり返ると さっきまでいた所の方が きれいだった』

『辛いという字がある もう少しで 幸せになれそうな字である』

『神様がたった一度だけ
この腕を動かしてくださるとしたら
母の肩をたたかせてもらおう』

秋の夜長、ご家庭でも、星野さんの詩を話題にし、親子で語り合う機会を設けてはいかがでしょうか。それぞれの詩から、星野さんから学ぶ生き方について考えてみてください。